

2

1992.5

薬友会報

千葉大学薬友会



千葉大学薬学部(1991年)

— 目 次 —

薬友会会长あいさつ	2	学生入学・就職状況	13
岩城謙太郎氏の叙勲を祝う	2	たすね人	13
情報化社会と薬剤師(黒川達夫)	3	会員だより	14
教授新任にあたって	4	薬友会のページ	15
研究室紹介	5	奉願先生のご逝去を悼む	16
教職員の移動	5	生涯教育セミナーのお知らせ	16
支部だより	6	編集後記	16
クラス通信	7	(題字 廣瀬聖雄 前会長)	

薬友会会長あいさつ 渡辺和夫



早いもので、会報創刊号を出したのがつい先日のように思えるのですが、ここに第2号発刊のごあいさつを申し上げることになりました。お陰様で、薬友会の諸事業は順調に運んでおります。先ずもって御礼申し上げたいのは、創刊号の発刊に当たり、名刺広告その他多大の資金援助を賜り、又、記事の中に経済的御協力をお願いしたところ、望外の御支援を頂きました。これにより、会報のみならず諸事業が順風満帆の船出をすることができました。先輩諸賢の母校愛に深く感謝致すところでございます。名簿の発行も完了し、既に大方の皆様のお手許に届いていることと存じます。未だ、種々と不備な点もございますが順次改善してゆきたいと存じます。

今年は、山崎副会長の御盡力で、薬友会主催の生涯教育セミナーの6月開催を企画致しました。既に地元薬剤師会から参加の御希望があるなど、各方面から大きな反響を呼ぶところとなっております。

私は、薬友会の神奈川支部、東京支部、近畿支部の各総会に御招待を頂き、会員の皆様の温かい御歓待にあづかりました。特記すべきは、近畿支部において、名誉会員の赤堀四郎先生の直筆のメッセージを頂いたことです。幸先よいスタートを切れたとは申せ、種々と未解決の問題も山積する薬友会でございます。大学改革の難事業もいよいよ本格化して参りました。今後、より一層の御支援をお願い致します。会員の皆様の御健勝を心よりお祈り申し上げて御挨拶とさせて頂きます。

千葉大学
平成三年十二月
渡辺和夫

岩城謙太郎氏の叙勲を祝う



前同窓会会长（昭和50年～平成2年）岩城謙太郎氏は、平成3年秋の叙勲で勳三等瑞宝章を受章されました。まことにおめでとうございます。

同氏は本学創立百周年の記念事業に同窓会会长として大きく貢献されましたが、又これと共に伝統ある同窓会を更なる活性化と発展を目指して会員の賛同のもとに組織・名称の変更を行い会長を辞任されましたことは、皆様の記憶に新しいところです。

同氏は大正8年東京日本橋の薬問屋に生れ、資性活達で明朗、誠実、指導力と統率力にすぐれ人望の極めて厚い人であります。

又諸外国語を巧みに操り、そのユーモアとウイットに富んだスピーチは、人を惹きつけずにはおられません。ここに同氏の略歴を御紹介申し上げます。

昭和15年3月 千葉医科大学附属薬学専門部卒業

昭和17年9月 早稲田大学理工学部応用化学科卒業（繰り上げ）

昭和37年～現在 イワキ株式会社、岩城製薬株式会社社長

昭和50年～平成2年 千葉大学薬学部同窓会会长

昭和59年～平成2年 早稲田大学応用化学会会長

昭和43年～現在 日本製薬工業協会監事

昭和60年～現在 日本医薬品卸業連合会会長

昭和60年～現在 （財）岩城留学生奨学会理事長

平成2年～現在 国際医薬品卸連盟会長

（昭和13年卒業 藤沢栄一）

情報化社会と薬剤師

— 薬友会に期待する —



厚生省業務局 新医薬品課課長補佐

黒川 達夫

大学を卒業し、薬剤師資格試験を受け免許をもらう。いつの間にか薬を知っているように思い、また社会も薬剤師は薬について何でも知っている人、世の中の薬の専門家というように考える。後ろの話は持ち上げ過ぎとしても、少なくともそうであって欲しい、と期待されるであろう。どうすればそれに応える事が出来るのだろうか。

私も薬剤師の免許を戴いている。そこで自分を振り返ってみると、日常の医療のなかで使われている薬、例えば保険薬価表の中に私の知らない薬が随分とある。薬理作用や効能、作用機序などを知っていることを「知っていること」の最低水準とすると、随分どころか知っているものはその一部に過ぎないことに、我ながら驚く。

一方、現在医療用医薬品として健康保険の対象になっている医薬品は13000を越える。これは無理だという言い訳の効きそうな数字である。見方を変えて、新しい医薬品だけは追いかけていくというのも方向である。因みに昨年一年間に承認された新医薬品は35成分である。これなら何とかなりそうに感じられる。しかし、バイオテクノロジーを応用した医薬品、例えば各種のサイトカインの登場など、ことは簡単ではない。

さて、成人病や慢性疾患が主流になった現在、病気との闘いは長丁場であり、場合によっては一生続く。患者は薬や病気についての情報を求め、自分で医療に参加しようとして始めている。3時間待ちの3分間診療と言われて久しいものがあるが、患者はそれに決して満足していないことは、これまで幾つもの指摘がなされている。ここで私はいつも自問するのだが、医療の中で国民から薬剤師に期待されている役割は、十分満足されるレベルで果たされているのだろうか。私自身を含めてまだまだ不十分なところがあると思える。

例えば、街角の書店に行けば、医師あるいは薬剤師から処方・調剤された薬を判別するための本が平積みにされている。なぜこれらの本が一般の人々に必要とされベストセラーになるか。これは、患者が薬について知りたいという要求に、薬剤師を含む医療関係者が十分応えていない、ということを象徴しているものではないだろうか。

考えてみれば、国民全体の教育水準は高く、また最近では「自分の体や健康のことを良く知り、自分で健康をまもろう」という健康に対する関心は極めて高いものとなっている。専門知識は無くとも自分なりに医療や薬を理解し、納得した上で医療を受けようという動きは、インフォームド・コンセントの考え方の普及に伴って大きな流れとなってきたつある。

今や、糖尿病の人が血糖値の正常値を知っていることは言うに及ばず、肝障害や腎障害の分野でも、ほとんどの患者はGOTやGPT、BUNなどがどの辺りを示していれば健康であるのか知っているのではないかろうか。

ここで考えなければならないのは、このような一種の国民総専門家、総評論家時代における専門家としての薬剤師の役割と機能である。前述のとおり、13000の医薬品について暗記し、年間30以上登場する新薬全てについてその特徴を知るということは無理かもしれない。しかし例えば、どの薬の情報はどこから引き出してどのように提供するかは、例え調剤やDIを仕事にしていなくとも、最小限知っていなければならないのではなかろうか。患者や一般の人々は、自分に関係する部分については実に勉強熱心である。専門家として十分な数の「情報の入った引出し」を持ち、医療全体からみたバランスのとれた説明や応対、さらにはそれらの知識に支えられた仕事を行っていくことが、情報化社会の薬剤師に期待される役割ではなかろうか。

私は、この意味で今後の千葉大学薬友会の活動に期待したい。私がこれまでに述べた事象に対する様々な試みは、既に個人や医療機関のレベルで行われており、経験はかなり積み重ねられている。後はやはり情熱と努力。一人では手につかないことも、集まれば知恵が湧くことがあると思う。卒後教育や地域と結び付いた活動などを長く継続、質の違った活動と成果を望んでいる人は私一人ではないものと思う。

(昭和48年卒業)

教授新任にあたって

薬品物理化学研究室 津田 穣 教授

(昭和34年千葉大学薬学部卒業)



物理化学教室を創るからという話を真に受けて千葉にやって来ましたが、我が薬学の土壤に物理化学教育はなかなか根づかず、20年がたちました。研究の方は、それでも順調に進展し、文部省科学研究費の支援を長年にわたって受け、電子スペクトル、振動スペクトルから分子の化学反応機構、固体表面での反応メカニズム、結晶成長機構などについて沢山の成果を挙げることができました。1991年には第1回原子スケール制御表面・界面国際会議のお世話をしましたが、これは私の過去20年間の量子化学研究の一つの区切りになったように思います。この会議は成功し、第2回は1993年ヨーロッパで第3回はアメリカで開かれることになりました。千葉に来る前に主として研究していた高分子の光化学、放射線化学の研究もいろいろな人々と共同してつづけ、1989年から毎年、フォトポリマー国際会議のお世話をしています。

さて、当研究室のこれから研究は学位志望の大学院生が担う部分が多くなるので薬学に、より密着した物理化学の研究主題として、「分子情報制御」を立てることにしました。量子力学の基本方程式 $H\psi = E\psi$ の目から見ると、すべての分子はその三次元構造という固有の情報を保持しており、その情報交換が物質間相互作用変化ということになります。薬学では、薬物-受容体相互作用が最もわかり易い例でしょう。制御とはこれに人間の意志を働かせることで、薬物による病気の治療がその良い例です。同窓会の皆様の暖かい御支援をお願いします。

医療薬剤学講座製剤工学研究室 山本 恵司 教授

(昭和46年千葉大学薬学部卒業、昭和51年北海道大学大学院修了)



日本では唯一の「製剤工学」教室の看板が前任の仲井教授によって掲げられたのが1969年(昭和44年)であり、その翌年の卒業実習生として教室に配属となり、以来22年間いろいろな製剤とその中の薬に注目した仕事をして参りました。薬の有効性・安全性・安定性等について物質の側から科学的に検討することにより、化合物を信頼して使用できる「製剤」へと質的に変化させることに寄与できるものと信じています。有機化合物の分子集合体としての諸性質、製剤中の分子の状態等の研究は未開拓な、いわゆる学際的な領域であり今後大いに発展が期待できます。異なる研究分野との交流を進め、薬学分野以外でも評価される仕事を目差したいと考えています。

大学の教育制度には今後多少の混乱が予想されます。しかし、広い視野、見識を持つ薬学人を養成することは本学部の伝統的使命であり、薬剤師教育への責任は一層重みを増していると感じています。厳しい中にも、教師、学生が信頼関係を持って共に学んでいける様努力したいと考えます。

衛生化学研究室 鈴木 和夫 教授

(昭和41年東京大学薬学部卒業、昭和46年東京大学大学院修了)



1992年1月1日付で衛生化学研究室を担当することになりました。衛生化学は人とその環境を対象とする学問です。即ち、人はこの世に生を受け健康に暮らし、そして健全に老いるためには、エネルギーを栄養素として過不足無く摂取するとともに、不必要となった老廃物を適切に体外に出さなければなりません。体外に排出された人にとっての老廃物は次の分解過程にのって循環しますが、この循環過程を人間生活の特に衛生面にとって好都合なように適切に処置することは衛生化学の分野に科せられた大きな仕事の一つでした。人間活動が異常とも言えるほどにまで増大してしまった現在では、人を取り巻く環境はこの自然界の循環過程から切り離された人間中心のものとなりすぎ、人間の生存そのものを危うくし兼ねないまでになってきたことが大きな関心事となっています。衛生化学も、人と人を取り巻く直接の環境のみに関心を持つだけでは過ぎなくなっています。地球全体のことを考え、自分達の置かれている状況を位置付け、教育と研究を通して足元からの行動を開始したいと思っています。

研究室紹介



薬化学研究室

薬学部における薬化学研究室は、古くから薬学における基礎的部門即ち有機化学を中心とする講義と実習を担当してきた。終戦後四十数年の変遷を経て、薬学全体の教育態勢も変化し、薬に対する教育と授業、さらには研究より創薬指向の道をたどることになってきたようである。以上のような情勢下において、当研究室が担当する教育は近年に大いに近代化した有機化学を、関連研究室と分担し、授業を担当している。更に高年次では医薬品を認識しつつその有機化学手法の授業を行っている。さて研究室の研究を振り返ってみると、その変動はまさに“光陰矢のごとし”と言わざるを得ないであろう。古い研究の話は省略し、1985年以後について述べると、放線菌由来の発がんプロモーター、テレオシンジン類の化学研究に引き続き、タイ国熱帯植物（マテン科）からの新規インドールアルカロイド類の化学研究を現地との共同研究下に発展させた。研究テーマには明確な期間の区切りはないが、1989年からはドイツ国マインツ大学・薬の J. Stöckigt 教授との“植物組織培養によるインドールアルカロイドの化学的研究”並びに“植物培養細胞の内在機能によるアルカロイドの生産”をテーマとして共同研究を行っており、幸い両課題で連続 6 年間にわたる文部省国際学術研究（科研費）の助成を得て、私が定年になるまで研究を継続することが約束されている。

（坂井進一郎）



生薬学研究室

萩庭丈壽先生（現名誉教授）が定年で御退官されたのが昭和57年3月のこと、早くも十年の歳月が経つことになります。後任は、助教授の村越が担当させて戴くことになります。以来今日に至っています。この間、研究室には若い現スタッフを迎えて、生薬学の基礎的・応用的研究を目的として薬用植物の化学的・生化学的並びに分子生物学的な研究に従事しております：現在の主な研究課題は、1：マメ科植物が蓄積するルビン系アルカロイドに関する化学的・生化学的研究、2：植物特有な非蛋白性アミノ酸類の生合成機構に関する研究、3：薬用植物の遺伝子組み換えなどの植物バイオテクノロジーによる有用物質の生産・制御に関する研究、4：薬用植物中の生理活性物質の発見と有効利用に関する研究、などです。

植物の二次代謝産物に関して、従来からの伝統的な研究と生薬学領域では異質にも見える成分の生合成機構に関する研究や有用医薬品類の生産・制御並びに農薬耐性植物の作出など植物分子生物学的な研究課題が相互に組み合った研究テーマは他に類例も少なく、研究成果は世界にも誇れる資産と自負しております。これらの研究成果は、研究室の若い教職員は勿論、国内外の共同研究者の協力並びに在籍学部学生・大学院生を始め外国からの研究留学生・研究者による日夜研鑽の賜であることを感謝している。

（村越 勇）

教職員の移動（1991. 4～1992. 4）

○教授発令

津田 穣（生物物理化学、学内 助教授より、1991. 10. 1）

山本恵司（製剤工学、学内 助教授より、1991. 10. 1）

鈴木和夫（衛生化学、環境庁国立環境研究所）

環境健康部病態機構研究室長より1992. 1. 1)

○助教授発令

笈川節子（生物物理化学、学内 助手より、1992. 2. 1）

石川 勉（薬品製造学、学内 助手より、1992. 4. 1）

○講師発令

小口敏夫（製剤工学、学内 助手より、1992. 1. 1）

○助手発令

米持悦生（製剤工学、学内 教務職員より、1992. 1. 1）

細川正清（薬物学、米国国立環境衛生研究所客員研究員よ

り、1992. 2. 1）

石井伊都子（生化学、学内 教務職員より、1992. 4. 1）

畠 品之（薬品物理化学、学内より、1992. 4. 1）

支部だより

東京支部

同窓会東京支部から薬友会東京支部に衣替へをする第1回千葉薬友会東京支部総会を平成3年12月4日に日本橋俱楽部で開催した。尚、来賓として渡辺薬友会長と岩城薬友会顧問の出席を賜わった。

総会は先ず支部長より同窓会から薬友会への発展的改組移行の経緯説明を中心として、物故会員の報告や岩城顧問の秋の叙勲（勳三等瑞宝章受章）に対する祝意の挨拶のあと、直ちに議事に入り今回の議題の目玉である①薬友会東京支部規則の制定、②支部役員の改選の2点を他の議案と共に承認を得て総会を終了した。

次に岩城顧問より受章のご挨拶を頂戴し、引続き渡辺会長より「千葉大学薬学部と薬友会の現状と将来展望」と題する御講演を頂いた。

私が日頃疎遠になっている母校の現状について入試改革、教養部改組、大学設置基準の改訂等の変革の問題と、これをクリヤーして新時代にマッチさせる諸計画、又薬友会としての新規事業計画（東京に於ける学術講演会の開催）等の将来展望をお聞きする事が出来、大学の現状を良く理解できた。

懇親会は支部長、来賓の挨拶、物故者に対する黙祷の後、池田名誉教授の乾杯で始まり、S12年卒～S62卒迄の老若男女51名（女性7名）が時の経つのも忘れ、歓談し旧交を温めた。恒例の校歌齊唱では宗像先輩（S14卒）、又千葉大学歌は吉田（S30卒）、大川（S32卒）、篠川（S45年卒）の女性3幹事のリードで全員が声高らかに歌い、最後は安田（S16卒）幹事の音頭で万才三唱し、盛会裡にお開きとなつた。年末多忙な時期ではあったが、久しう振りに充実した集まりが出来た事は会員の皆さんのご協力のお蔭と深く感謝すると共に今後一層のご支援をお願する次第である。

（三浦 清）

近畿支部

平成3年12月13日、近畿支部総会が、渡辺和夫薬友会会长の御臨席を賜わり、大阪市高麗橋のライオンズホテルで開催されました。支部会員は現在約70名です

○教務職員発令

土屋静子（薬品化学、ヒタタより、1992. 4. 1）

山崎真巳（生薬学、学内より、1992. 4. 1）

○転出

原山 尚助教授（薬品製造学、岡山大学薬学部教授へ、
1992. 3. 31）



が、内20名（鈴木S5、森島S5、浜中S8、松坂S10、竹内S13、坂本S13、大谷S14、伴S14、矢田部S15、堀S29、衣非S31、検見崎S31：支部会長、上野S33、吉成S33、早藤S33、武田S34、牛山S35、加藤S38、花岡S46、賀登S52）の参集のもとに盛会に行なわれました。渡辺学部長から大学の近況、薬友会新発足後の歩み、今後の活動計画の紹介があり、更に会員最年長の赤堀四郎氏（元大阪大学学長）からの元気で温かいメッセージや出席者の近況報告などが続々、時の経つのも忘れ旧交を大いに温めました。なお、本活動は薬事日報にも掲載されました。（早藤 弘）

神奈川支部

平成3年7月15日午後6時30分より、根岸の薬業会館で、神奈川県の薬学生同窓会を開催した。大学から渡辺学部長がみえられ、60名の参加があった。

清水正夫氏（昭23年卒・横浜赤十字病院薬剤部長）の司会で進められ、永利裕生会長（昭19年卒・神奈川県薬剤師会会長）の挨拶に続き、渡辺学部長が大学の近況と、薬友会会長として、その活動を話された。

今年は、4月に同窓の渡辺教授が学部長に、6月に村瀬一郎氏（昭38年卒）が県の薬務課長に、更に、昨年秋に谷孝之氏（昭38年卒・県衛生研究所食品化学科長）が母校より薬学博士授与と慶事がいくつも重なった。また、岩城薬友会顧問も出席されてお祝いの挨拶をなされた。物故者へ黙禱を捧げた後、宴に入り、中村晃藏氏（昭9年卒・元県薬剤師会会長）の音頭で乾杯し、先輩後輩入り混じり、杯を交わして歓談した。追憶歌・校歌を歌うなど盛会であった。菊地博氏（昭14年卒・元県薬務課長）の来年の再開を約しての挨拶で散会した。

（村瀬一郎）

○辞職

五十嵐 降助手（薬物学、ローヌブーランローラー院へ、
1991. 10. 31）

鈴木徳昭助手（生物物理化学、日本メジフィジックス院へ、
1992. 2. 2）

○研究室名称変更

生物物理化学研究室→薬品物理化学研究室（1992. 4. 1）

クラス通信

昭和3年卒業(思葉会)

再び「千葉笑ひ」について

60余まえ、千葉薬学誌（と称したか）に、同じく「千葉笑ひ」という表題で短い文章をのせていただいことがある。詳細は忘れたが、それは、むかし毎年人晦日の夜、千葉寺あたりへ近在の村人たちが集って、その年間の行政実績について、あれこれ批判したあげく、みんなで大笑いしたという故事を伝えるものである。これが為政者の自衛を大いに促したらしい。遠い昔の素朴な村人たちの笑顔が浮んでくる。さて級友・丹野雅道君は尺八都山流の先達として、大いに名をあげている。めでたし、めでたし。（松岡徹正）

昭和5年卒業(五葉会)

学校を昭和5年に卒業して既に60年の歳月を送り徒に馬鹿を重ねるばかりいてたゞたゞ胸甲斐無い日々を送っております。学校に入学したとき、前例になく60数名の多い入学者でしたがその後今日にいたる60の間に、物故者は判明しているものだけで36名に上り現在の生存者は22名の淋しい状態に至りました。私達は昭和5年卒によりクラス会の名称を五葉会と称し近年は毎年一回箱根湯本温泉において開催月を5月と定め集っております。昭和52年5月開催の際は20名集ったこともあります。昔の千葉の追憶やその当時の学校や街中の様子などに話題は賑やかで夜の更けるのも忘れている有様です。（石田 新）

昭和6年卒業(昭九会)

年を取ってくると年月のたつのが早く感ぜられる。昨年、我らの会を開催したのが8月の7日であった。今年もクラス会を開催することになって9月19日と決め、諸事万端の手配をしたのだが、台風襲来と相成り急遽中止となった。そのやりなおしの会を歲もつま

た12月8日に、いつもの場所の有楽町の「大雅」で開催した。集まったのは、新井正泰、山中正一、吉野正一、川奈部真佐雄、中原誠一、高松一郎、田沢博明、中村晃藏の8人で、新井、山中の両氏は夫人同伴であった。しかし、その席上勝野三郎くんの死去を知らされた。この一年の間にまた、一人の友を失った。悲しいことである。話が弾み会は4時間程でお開きとなった。一年一年を大事にしようと誓った。（中村晃藏）

昭和10年卒業(十千葉会)

現在会員数は卒業時の約半数28名となりました。会長立崎浩氏を始め生涯現役で頑張っているもの10数名・毎年6月初旬湘南方面で一泊の会合を続けています。出席者は16~7名、酒量は減ったが家庭や健康の話題で一夜を語り合うのが楽しみです。千葉市も近く政令都市となり益々発展することでしょう。喜寿を迎えた私達も旧交を温め合う方策を何か考えたいものです。（若林元光）

昭和11年卒業(土葉会)

小口松雄君は長野県諏訪市の出身で昭和8年4月にトップで我々と一緒に薬専に入学され、クラスで1、2を争ふ偉丈夫で1年のときから学校より指名されてクラス委員となり、以後卒業までクラスと学校との連絡係を努めて下され、学業成績も抜群でクラスの人望も厚かった。私は3年間小口君と矢作の下宿屋で同宿し徳に別室にしてあた。昭和11年3月卒業式に引き続き長州の長崎屋の離散会で別れて以来永久の別れとなつた。彼は卒業と同時に現役として陸軍へ入隊され、薬剤官となられ、薬剤大尉で戦時中南方へ派遣され、戦死されて、薬剤中佐に叙せられたと風の便りに聞いたが真偽の程は判らない。我々は昭和11年に卒業なので土葉会と命名した。本来なら小口君が土葉会のリーダになられる所だがそれも叶わず私と本田君が連絡係を努めてゐる。現在生存者26名中音信不通の者が5名居

山之内製薬株式会社

〒103 東京都中央区日本橋本町2-3-11
電話 03-3244-3000 (大代表)

八トアエイヨー株式会社

取締役社長 田 中 照 夫
(昭和25年卒)

〒104 東京都中央区京橋3-1-2
電話 03-3281-3888

り名簿作成に当たり処置なしと思うが如何したもので
しょうか？
（大河原原五郎）

昭和13年卒業(亥丘会)

昨年5月25日東京ルビーホールでクラス会を開催、出席者は、泉富雄、飯豊章司、内田文雄、小野口邦夫、狩野貢太郎、坂本晴治、富永大六、中込正一、藤沢栄一、矢橋知己、吉田俊の11名であった。その席で平成5年は卒業55周年に当るので、明年5月下旬に湯河原に一泊しての懇親会を催すことが決った。幹事は小野口、飯豊の両君である。万障繰り合わせて集まらうではないか。不幸な事に昨年は中島武郎君が逝去された。54名の会員で逝去者21名、生存者31名消息不明者2名（佐野健治、金坂四郎）である。
（藤沢栄一）

昭和15年卒業(二六会)

昨年10月クラスメートの岩城謙太郎君の思い出の記と云うか自叙伝と云うのか自費出版の書籍“ふりむけば”的出版記念パーティが帝國ホテルで開かれ、大雨の悪天候にも拘らず400名内外の人々が集まりました。良くは判りませんが多分彼のご交友を願っている日本橋の名士連、彼の出身校の曉星、千葉大薬学部、早稲田大学理工学部のお友達、その他会社関連のお客様等が集まり、彼一流の馴熟落の挨拶に始まって、ワイワイがやがや、余興にはイベット・ジロー夫妻によるシャンソンの演奏まであり、大変な盛況でした。我々二六会のメンバーの者も10名ほど集まり遠くは新潟から山本君、静岡から山内君、小田原から山崎君が見え、想わぬ二六会の会合にもなり、また宗像先輩はか池田名誉教授、飯森君などと共に1テーブルを占領し、よもやま話に花が咲き、楽しい一刻をすごしました。

（横田 修）

昭和16年3月卒業(一葉会)

クラス会は、一葉会と称す。卒業時47名、物故者13名（戦没並病没）消息不明2名、現在32名。丁度、卒業以来満51年経ちました。以来、戦中戦後を通じ、頑

張って、生き延びてきました。思えば在学中は、良く勉強する者あり亦ある者は午後の実習を適当にサボリ、夜は、アルコール性飲料の攝取実験に励んだりして種々雑多な人間模様がありました。現在全員70才を過ぎて、人生の最終コースに入り、後輩諸君の先達としていくらかでも御役に立てばと、心掛けております。

（向井廣澄）

昭和17年9月卒業(翠葉会)

開戦2年目、繰上げ卒業が強化され10月卒業と同時に陸海軍に入隊又は召集されたことは同時代の先輩後輩の皆さんと同じで、戦後の苦しい時代を互いに助けあい、研鑽し、努力して今日まで来ました。そのメンバーも老境に入りクラス会は楽しみになり、心の張りになりました。昨年3月に大宮市「車屋」で開催し新潟、静岡からの参加を得て会は大いに盛り上りました。席上、来年は卒業50周年記念翠葉会を千葉で祝おうとの提案に千葉在住者幹事が受け、場所も思い出の離散会をした千葉市の「並木」で開催する事を決めましたが、この所亡くなる友が出たせいか今秋でなければ受けないとので10月26日、一年早い祝賀会を開き15名の出席をえて若き日の思い出話に花が咲きました。今秋は石和温泉でと毎年開催が可能になりました。

（堤保二郎）

昭和18年9月卒業

約5年間位途絶えていたクラス会を、越出、鈴木（周）、秋山、水野、辻の5名の発起人で久しぶりに、次の要領で実施しました。

日 時 平成3.11.23(土)、11:30~15:00

場 所 新宿ホテルサンルート東京2階、

車屋（日本料理）

参加者 小林（2人の孫娘さんと一緒に）、川崎、有川、鈴木（勝）、果山、山本、福島、山内、吉田、藤森、早川、高野、滝口、岩井、越出、鈴木（周）、秋山、辻の20人

会場へ来て、顔を見合せても一寸誰だか判らない

イワキ 株式会社 岩城製薬株式会社

代表取締役 岩城 謙太郎
(昭和15年卒)

〒103 東京都中央区日本橋本町4-8-2



中外製薬株式会社

〒104 東京都中央区京橋2-1-9
TEL(03)3281-6611

者も、またすぐ彼だと判る者もいたが、少し経つと在学中の調子に皆がなってきた。クラスメートは有難いものである。各人から思い出や近況、亡き友のことなどを話してもらった後、懇談を続け盛会のうちに終了した。卒業した者の約半分は既に亡く、感無量である。残った我々は健康に留意して大いに頑張りたいものである。

今後の運営については

- (1) 毎年6月上旬に開催する。
 - (2) 再来年のクラス会…卒業50周年なので来年の会の時、どのようにするか話し合うことにした。
- (辻 重明)

昭和20年卒業(るっぽ会)

前回御報告のあのクラス会実施状況と平成4年の計画をお知らせ申上げます。平成3年7月4、5、6日、会津若松と磐梯熱海（当番）金子、鈴木、山田（精）、（出席者）大谷、当山、中川、原、細川、横田、吉田計10名。大変盛り沢山の観光で全員で楽しく旅をエンジョイ致しました。さて、本年（平成4年）は沖縄在住の当山君のお世話で1月28日～31日と沖縄特別クラス会と沖縄観光の旅をすることになり希望者を募ったところ始めて御夫妻を含む下記10名の参加がありさぞ素晴らしい旅になることと思います。（参加御予定者）細川夫妻、金子夫妻、大谷夫妻、中川、吉田、横田、原の面面です。このところ数年旅行づいて各地在住の当番の方のお世話でクラス会が遠出になつていろいろの事情で参加出来ない方も多いので、本年よりは、又旧に戻って毎年6月第一土曜日の夕刻、東京上野駅前「蓬萊閣」ホールライカクで定期クラス会を開催することに致しました。平成4年は6月6日（土）午後5時半からです。御都合のつく会員の方は奮って御出席下さいますようこの紙面にてお願い申上げます。

(原 文男)

昭和23年卒業

我々のクラス会は創刊号に予告したように、平成3

吉富製薬株式会社

〒541 大阪市中央区平野町二丁目6番9号
電話 06-201-1600

年6月8日（土）午後から母校に集合し、「飾り屋根」と「100周年記念館」を見学後、大学に程近い轟町の「三幸すし」に客席に移し、3年振りに旧交を温めました。記念館の見学では、式典当日参加出来なかった人達の為に、広瀬教授のご鄭重なご挨拶と吹野博士のご援助により、100周年記念式典と祝賀会の模様をビデオで再現して頂き、参加者一同大変感謝して居ります。当日の出席者はゲストの池田先生を含め21名で前回より若干少なかった。メンバーは元代議士、社長、大学教授、県薬剤師会長、元薬局長等多士済々且紳士の方々であるが、顔を合わせ言葉を二言三言交わせば、あの亥鼻で渉、宮木、三宅の諸先生を手こすらせた懐童に立ち返り、思い出話はつきる事なく二次会に持ち込んでもまだまだ不足のようであった。クラス会の毎年開催と一泊旅行が提案され、次の幹事は井上、松崎、中西、海野、吉川君にお願いする事に決定、何分よろしく。

(三浦 清)

昭和24年卒業

昨年11月17日にクラス会を熱海伊豆山温泉で開催した。参加者は17名だったが、不参加者から頂いた近況報告を紹介したのち参加者から近況報告、思い出話などで一順したあと、それぞれの趣味についての披露がなされた。寄附されたウイスキーやワインにはあまり手がつかなかったようだが、誠に楽しい一夜を過ごすことができた。翌日は希望者が熱海ゴルフクラブでプレーを楽しんで無事終了した。本年は東京在住者が幹事となって開催することにしている。昨年は開催日が結婚シーズンであったせいか、都合で欠席の人もあったが、本年は多数の参加を期待している。

(崎山晃正)

昭和25年卒業

平成3年11月15日に飯島・小森両君の世話で、御茶の水近くの「かくれんぼ」でクラス会を開催、今回は16名の参加を得て久しぶりに旧交を温めた。集った諸兄は会社社長あり、勤めているものあり、定年退職ホ



ファルミタリア カルロエルバ株式会社

本社： 東京都港区六本木1丁目4番30号
第25森ビル 20階
電話 03-3224-7161 (代表)

工場： 神奈川県川崎市川崎区殿町1丁目8番17号
電話 044-276-3131 (代表)

やホヤあり、又は孫を相手にサンデー毎日の生活を送っているものありで、還暦を過ぎた面々がそれぞれの近況や所感を披露、時間の経つのも忘れたひと時だった。次回は埼玉県在住の阿出川と佐子両君にお世話願うことになっている。

(酒井長一郎)

昭和26年卒業(26亥昇会)

われら26歳のはな会は、店舗(大塚)さん、安田さんの紅2点、そして、病身の田口君を交えて18名が熱海に集い、春宵の一刻を楽しく過ごしました。田口君は、御夫人とお嬢さんの介添えを得てまでの出席で、彼の友を想う気持ちに出席者一同感激した次第です。不運にも鬼籍に入りし阿部、白石、西川、宮地の4君への黙祷を捧げ宴会となりましたが、卒業以来の友も多く、語りたきことは湧き出でて盡きず、席を二次会場に移し夜の更けるも忘れ歌を尽くしました。昔を想い青春の日を語ることも、六十路からの人生を生きるエネルギーになる筈です。皆さん、次回のめのはな会には是非出席して下さい。そして、29名の友情で温めた盃を高く上げようではありませんか! /

なつかしき校歌を高く唱すれば

千葉の三年浮かびては消えゆ
還暦の友らつどいし春の夜は青春をかたり
更けゆけにけり

(福島 靖)

昭和29年卒業

平成4年壬申、今年は、昭和29年卒業の我々にとって特別な年です。これ迄に全員が還暦を迎え、新しい人生を始めたことです。或る人は、引き続き社会の要職に在り、或る人は、自身で決めたライフワークに取り組み、又、或る人は、悠々自適の生活を送っています。今迄は、お互いに多忙なためクラス会などあまりまなりませんでしたが、今後は、是非定期的に開くよう、幹事さん「どうぞよろしく!」、皆さん、以前に増してご協力をお願いいたします。

(比留間和夫)



大正製薬株式会社

〒171 東京都豊島区高田3-24-1
☎03(3985)1111(大代表)

昭和31年卒業(千葉薬三一会)

平成3年3月16日~17日に35周年記念旅行を行いました。30名が西千葉キャンパスに集合し、百周年記念館、薬草園を見学しました。広瀬学部長にご挨拶を頂き、すばらしい設備・環境に感激しました。幹事の気配りが行き届き、楽しく特急に乗り、館山から眺めのよい白浜に一泊し、35年を振り返り旧交を暖めました。次の日は、チャーターバスで、野島崎灯台、南方バラダイス、鰯の浦、誕生寺と廻り、房総の名所と花の春を満喫しました。ランの花と蝶は、特にすばらしく夢のようでした。

(星 昭大)

昭和33年卒業

卒業33年目に当たる昨年6月22日クラス会を開催した。昨年、渡辺和夫教授が薬学部長に就任した祝いと、永らくインドネシアエーザイ社長として、ジャカルタに赴任していた大部順久君が、無事帰国した歓迎会を兼ねていた。出席者は男女30名。恩師、池田・山根両名誉教授と関口教授(北里大)のご出席をいただき、この度発足した「薬友会」の発展と「大学の今後の姿」など話題となり、盛会のうちに終了した。我々のクラスの中で、異色なのは石井智君である。時々TBSのゴルフ中継で顔を見ることが出来る。テレビのゴルフ中継は、彼が開発したと聞いている。(渡辺 楠)

昭和36年卒業(三六会)

平成3年は昭和66年に当り、従って卒業30周年ということになります。これを記念し、11月16日(土)新宿においてクラス会を開きました。半分以上の25名が出席し、なつかしい学生時代のこと、現在の情況などを話し合い、4時間があっという間に過ぎました。皆んな子供も大きくなり、家庭にはいっていた女性も二度目の社会人として活躍をし始め、男性は勿論現役で、落着いた年代です。留学生だった李功固君もわざわざ台湾から駆けつけました。

(村上泰興)

白鳥製薬株式会社

〒261 千葉県千葉市美浜区中瀬2-6
WBGマリブウェスト25F
電話 043-297-0511

昭和37年卒業

過ぎてしまうと早いもの、我が学年は今年、卒後30年を迎えることになりました。昨年の同窓会（20名出席）の席上にて提案があり、真山武志氏、永田利一氏、井坂（野田）光氏が幹事に決定。今年に入って、同窓の沢井哲夫（千大）、井上圭三（東大）両教授の記念講演を企画の柱とした、「卒後30年を祝う会」を開催するはこびとなりました。多勢の参加を熱望する!!

日時 5月30日（土）、午後5～8時

場所 明治国際会館内「高松」（東京銀座、三越デパート裏）

TEL 03-3564-4881

（星野英雄）

昭和38年卒業

H3年度のわが学年のクラス会は、10月5日赤坂のニュー・オオタニのスカイ・ラウンジで催しました。参加者は、女性10名・男性3名の計13名（このところ、女性優位です）が集まり、目の前には素晴らしい大東京夜景・バックにはラテンのムードミュージック、そしてカラフルなカクテルのフリー・ドリンクといたれりつくせりのサービスに充分満足させられました。これには、原口幹事の永年にわたり培った実績が物をいいたということあります。また、6月には神奈川県衛生部に村瀬課長が誕生したところであります。今年は、4年に1回のオリンピックの年なので、1泊2日のクラス会を催す予定で候補地を選定中であります。大勢の方のご参加を期待しております。（村瀬一郎）

昭和39年卒業

私のクラスは、男子15名、女子21名の人数の少ないクラスですが、渡久地貞男君が若くして他界した以外は35名全員元気で頑張っています。クラス会は2～3年毎に開いておりまして、前回は1990年10月27日赤坂TBS会館の「グラナーダ」で開催致しました。出席者は江崎、久保、坂井、鈴木、山口、戸塚、佐藤

（敏）、五十嵐の9名で楽しい一時をすごしました。皆さんが責任ある立場となり、なかなか大勢の人が集まりにくくなりましたが、来年度は卒業30周年目にあたりますので、坂井君を幹事として、盛大なクラス会を行なう予定となっております。昔に戻り、大いに旧交を暖めあいましょう。

（五十嵐一衛）

昭和46年卒業

湾岸戦争の勃発で明けた昨年平成3年であったが、我々昭和46年卒組は卒業20周年ということで、7月14日に東京竹橋会館で両クラス合同によるクラス会を開催した。北川晴雄教授が突然他界された昭和62年以来のクラス会であり、卒業以来初めての顔を会わす同窓の上、勤続疲労で劣化の激しい族、セーラ服を着せても通用しそうなレディー風、等々外観・性状は変化しても会話が弾む場合には、会場は20年前にタイムスリップした雰囲気であった。出産・育児を経て社会復帰された女性群も多く、企業、病院、主婦等、場所・内容は変わっても同窓生が其れ其の場で活躍されていることを知り、改めて自らに気合いを入れ直した1日であった。

（石内正明）

昭和47年卒業

早いもので今年は卒業20周年にあたる。思えば、学園紛争が吹き荒れる中での学生生活であった。薬学部でも年中討論会がもたれ、ストライキ決議もした。しかし、その学園紛争も既に風化し、歴史の一コマになってしまった。同期会は、今までに何回か持たれた。我々の代も女性が多く、子供の面倒等でだいたい出席メンバーが限られていたくらいがあるが、そろそろ手を放れかけているのであろう。今年は節目もあり、大勢の参加者を得て、盛大に同期会を開けたらと願っている。

（石川 勉）

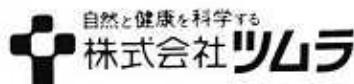
昭和48年卒業

我々の学年は、卒業後3～4年ごとに1度クラス会を持っています。最近では平成2年に新宿厚生年金会

株式会社 常磐植物化学研究所

代表取締役 立崎 隆
(昭和41年卒)

千葉県佐倉市木野子158
電話 0434-98-0007



本社／東京都千代田区二番町12番地7
TEL: (03) 3221-0001 (大代表) ¥102

館で50人以上参加してクラス会を開きました。子育てに一段落した方々もあり、卒業後はじめてみる顔もあり非常に盛り上がった会でした。名残惜しさからか、2次会にも30人以上が参加し大騒ぎをし、まだ青春だということを再確認しました。ただ1つショックだったのは、学生時代と比べ太ったのは私をはじめとする公務員だったことです。やはり、批判の対象になるのかもしれません。最近では、いろいろな場所で思いがけなくクラスの人と会う機会が増え、この世界が狭いことを痛感する一方、いろいろ得もしております。その意味からも、このクラス会が長く続くことを願っております。次回の幹事さん、よろしくお願ひします！

（森田育男）

昭和55年卒業

天罰は忘れた頃にやってくる、！？同期会幹事を引き受けたものの何も進まないどころか、「86年には懸川君・下東さんに同期会を開いていただく（感謝！）」という大ボケがある日、原稿依頼が来てしまいました。どひゅ、！ドロナワ式に情報を集めるしかない。で、その結果。子育て奮闘中の人がやはり多いようです。すでに子育て一段落して管理薬剤師として活躍中の蓮沼さん、米国帰りの懸川君、内田さん、瀬田さん、留学中の小山君。合唱に燃えている原さん、コミックスに躍進中の森さん、南波さん（森さんは「義経哀記」東京三世社を出版。買ってね、！）。それぞれ頑張っているよううれしくなります。私も神経内科医として6年目に入りました。これを機会に同期会に向け準備を始めるつもりです。とりあえず近況アンケートなど考えています。今回御協力いただいた皆様ありがとうございました。次号には、同期会報告を載せられることを願っています。

（朝比奈真由美）

昭和57年卒業

一期校入試経験組の最後の世代です。80人中男性わずかに十数人しかおらず、女性パワーに圧倒されないために（？）男子学生の結束が堅いと評判でした。卒業後数年は毎年盛り上がっていた78P同窓会は、家事・育児に熱心な女性が多いため（伊藤、平田、増田各氏も子煩惱なパパとして奮闘中）か、次第に出席率が低下したため特別お休み期間をとっておりました。しかし、やっと育児も一段落したという声がちらほら聞えたり、学生時代が妙に懐かしく思えてくる年代に入ってしまったようですから、いよいよ同窓会を再開しよう話し合っております。乞うご期待、！また、仕事などで海外にて活躍する機会も多くなってきましたが、現在海外にお住まいの方は次のとおり。

・千葉／カナダ・トロント

- ・内藤／アメリカ・ニュージャージー
- ・本田（深沢）／アメリカ・カリフォルニア
- ・三井（大西）／アメリカ・N I H

連絡をとって、是非訪ねて行ってみましょう。

（小口敏夫）

昭和61年卒業

大学を卒業して約6年がたち、仕事の場では中堅どころとして重要な仕事をまかされたり、家庭に入つて子供の世話を追いまくられている人もいる。同窓会は卒業以来だいたい隔年で開いている。前回は一昨年、クラス担任であった藤田先生が北海道大学へ御栄転される折りに藤田先生と同じクラス担任であった坂井進一郎先生を御招きして行った。当日は約40名程の参加者があり、卒業以来初めて出席した人、のろけ話を聞かせてくれる人（複数）などもいてなかなか盛況であった。

（安東賢太郎）

平成2年卒業

一昨年秋に同窓会を催してから約一年半が経ち、卒業からは早くも二年の年月が流れ去つて行きました。その間には既に結婚を済ませて、お母さんになってしまった人、結婚を真近にして幸せ一杯の人も何人か生まれました。適齢期云々といった話が世間では語られていますが、今年から数年間はこのような話題が同窓会での酒の肴となるのでしょうか。一部で広まつて「今年3月に同窓会をやる」企画ですが、企画責任者A君の都合により5月半ばに変更致しました。期待された皆様にはこの場を借りてお詫び申し上げます。「そのかわり、5月の同窓会では必ず皆様に喜んで頂ける様努力します。」とA君が申しております（？）のでその時は宜しく。

（須田真也）

平成3年卒業

昨年の3月に卒業してから、もうすぐ1年が過ぎようとしています。就職し大学を離れた人は勿論ですが、大学院に進学した人も、皆日々の生活に追われ、ゆっくり話をする機会がなかなかありません。8月24日には、初めての同窓会が薬学部講堂にて行われました。これからも年に1度は共通の時間を過ごせるようにしたいと思っております。（宮下愛次・生田理恵）

1992年度 梨学部入学者出身高校一覧

(入学者83名、男30名 女53名)

- 6名 県立船橋(千葉)
 3名 水戸第一(茨城)、県立千葉(千葉)、千葉東(千葉)、東葛飾(千葉)
 2名 前橋女子(群馬)、東邦大付東邦(千葉)、葉園台(千葉)、学芸大附(東京)、小石川(東京)、白鷗(東京)
 1名 酒田東(山形)、鶴岡南(山形)、米沢興譲館(山形)、安積(福島)、福島女子(福島)、竹園(茨城)、
 土浦第一(茨城)、水海道第一(茨城)、沼田第一女子(群馬)、大宮北(埼玉)、越谷北(埼玉)、淑
 德与野(埼玉)、城西大付川越(埼玉)、国府台(千葉)、佐原(千葉)、芝工大柏(千葉)、市立千葉
 (千葉)、千葉南(千葉)、長生(千葉)、日大習志野(千葉)、青山(東京)、桜蔭(東京)、海域
 (東京)、共立女子(東京)、小松川(東京)、女子学院(東京)、果鵠(東京)、成蹊(東京)、東大
 附(東京)、西(東京)、厚木(神奈川)、市立金沢(神奈川)、県立相模原(神奈川)、桐蔭学園(神
 奈川)、平塚江南(神奈川)、横浜(神奈川)、横浜共立学園(神奈川)、静岡(静岡)、浜松湖南(静
 岡)、新潟(新潟)、加茂(岐阜)、岐阜北(岐阜)、桐蔭(和歌山)、長田(兵庫)、岡山朝日(岡
 山)、広島城北(広島)、広島女学院(広島)、徳山(山口)、熊本(熊本)、宮崎大宮(宮崎)、錦江
 湾(鹿児島)、志布志(鹿児島)

1991年度 卒業生の進路

会社／進学	4年生	大学院	計
進学者	3827	5(5)	4382
ツムラ	3	3(2)	6(2)
山之内製薬	2(1)	4(4)	6(5)
資生堂	1	4(4)	5(4)
第一製薬	2	3(3)	5(3)
大正製薬	3	2(2)	5(2)
日本ロシュ	3	1	4
エーザイ	2	1(1)	3(1)
日本グラクソ	2	1	3

会社／進学	4年生	大学院	計
萬有製薬	3	0	3
公務員	2(1)	1(1)	3(2)
大学・研究所	1(1)	2(1)	3(2)
研究生・研修生	2(1)	1(1)	3(2)
三共	1	1(1)	2(1)
帝國職器製薬	0	2(2)	2(2)
東レ	1	1	2(1)
明治製薬	0	2(2)	2(2)

() 内は男子数

★1名就職先

旭化成工業、榮研化学、荏原インフェルコ、花王、キッセイ薬品、協和醸酵工業、参天製薬、サンド薬品、ゼリア新薬工業、ソフトウェア興業、第一化学薬品、ダイナボット、大鵬薬品、中外製薬、帝人、テルモ、常磐植物化学研究所、鳥居薬品、日産化学、日本化学、日本たばこ産業、藤沢薬品工業、三菱化成、三井製薬工業、三井東圧化学、持田製薬、ライオン、留学

たずね人

(終身会員および昭和30年～60年卒業まで)

次の方々は、現在住所等がわかりません。ご存じの方は、薬友会名簿係までお知らせ下さい。

(敬称略)

S. 12. 3. 神田 正夫	S. 34. 3. 鈴木 俊子	S. 34. 3. 趙 崇済	S. 36. 3. 町田 成司
S. 40. 3. 末広 篤子	S. 40. 3. 徳永 照子	S. 40. 3. 中田 正子	S. 40. 3. 安田ひさ子
S. 40. 3. 山田日出子	S. 40. 3. 渡辺 洋子	S. 45. 3. 末吉フヤ子	S. 47. 3. 本間 光子
S. 47. 3. 春日 泰江	S. 47. 3. 吉野 麗子	S. 49. 3. 岡島留美子	S. 50. 3. 小川 真弓
S. 51. 3. 秋山 若枝	S. 52. 3. 鈴木 哲	S. 53. 3. 黒川美奈子	S. 54. 3. 金 晴夫
S. 55. 3. 太田 栄子	S. 57. 3. 岡山 晴美	S. 57. 3. 津島 春子	S. 57. 3. 山口早百合
S. 58. 3. 大関 哲也	S. 59. 3. 妹尾 慶子		

会員だより



前納 勇（昭8卒）
秀夫、恵子（共に昭46卒）
浩一（昭61卒）

少しこれは社員と一緒に飲みに行ったり遊びにいったりすることが相互のコミュニケーションをとることになっていたよう思うが、最近は新人社員と一緒に会話を楽しむのも難しくなってきた。よう感じてしまう。そう言えば甥の浩一君が大学院を卒業して4年にもなるのだから、さもありなんというところなのだろう。我々夫婦も大学を卒業して今年で21年を迎える年になり、久し振りに千葉へ行ったりすると街の様子の変化にびっくりさせられる。自分が大学受験の時に、何処にしようかと迷った掲げ句に父と同じ千葉大学を選び、そして工学部から薬学部と7年間もお世話になり、そこで家内とも知り合い、多くの友人とも出会うことができた訳ですが、浩一君も含めて代々でお世話になることができて本当に有難いと思っています。国立大学に入よりも長い間お世話になったことが、社会に出てから、世の中に少しでも役に立てるような仕事をしたいという気持ちにさせていっているとも思っています。

薬剤師という職能を通してどれだけ社会へ奉仕できるかわかりませんが、医療の発展、公衆衛生の向上、そして広く地球環境の改善等の為に皆さんと一緒に頑張っていきたいと願っています。

前 納 秀 夫
(昭和46年卒業)



あの「百年史」のこと…

高 橋 滋 也（昭和28年卒業）

この頃は、広告クリエイティブの仕事も、机上で原稿用紙に書くという作業は、全くなくなってしまった。かっての自慢のペンダコもその痕跡を失いつつある。というのは、原稿の企画・制作は、レイアウトやページネーション等も含めて、総てワークステーションのディスプレイ上で、考え考案するようになったからである。

ギーポードを叩きながら、アイデアに行き詰まったり、そろそろ集中力が薄れてきたかな…と思うと、仕事の内容とは関わりのない画集とか詩集とかのページをめくって、気分転換を図るのだが、そんなときに、書架から「千葉大学薬学部百年史」を持ってきて、しばしそのページを繰ることがよくある。活字を追うというのではなくて、なにげなく目を通す写真や資料から、あの頃の思い出が連鎖的に蘇ってきて、ある種のイメージーションの世界で遊ぶことができるからだ。

それにもしても、この「百年史」は、ちょっとほかには類を見ないユニークな「百年史」である。編集委員の先生方の資料収集力も卓越していたが、できるだけその資料をナマのまま収載しようという編集方針も見事だった。卒業生として、百年に一度の本作りに参画させて頂いたことは、なんとも光栄だと思うし、印刷所の近くのホテルに委員の先生方を宿泊にして、最終校正の突貫作業をして頂いたことなども、今にして思えば、誠に懐かしい思い出として蘇ってくる。



徳村多仁子（昭和56年卒業）

1990年12月4日、私は青年海外協力隊員としてザンビアにやってきました。仕事は国で唯一の調剤技師養成機関、エブリンホンカレッジ準医療学部薬学科（1学年20名、3年制）の講師です。学科・調剤実習の内容は日本のものに近く、私の担当は主に製剤学関係です。学生達は非常に勤勉で、教科書は貸出か、それさえない科目もあるのですが「記憶力」は日本人以上です。ただ、「理解力」「計算力」の不足に障害を感じています。

私もそうでしたが、私達のアフリカに対するイメージはアフリカに来ると一変します。都市部では舗装された広い道路、十数階建のビル、賑やかな商店街、沢山のスーパーマーケット、多くの日本車。道ゆく人々はネクタイ・スーツにワンピース、バーマをかけて美しく化粧した女性も少なくありません。ただ、街は全体的に埃っぽく汚れていています。政府は公共施設の維持ができる状態にはありません。また、勿論貧しい人々も街にあふれています。でも人々は人情を忘れてはいません。道を尋ねればわざわざ連れていってくれたり、買い物籠を落してしまって周りの人が拾い集めてくれたり…。どうしてこんなにも多くの親切と非合理と犯罪が同居できるのか驚いてしまいます。「もう協力隊はいらない。あとは自分たちでやるから。」という日が一日も早く来てほしい、そう思うこの頃です。

千葉大学薬友会総会・懇親会のお知らせ

日時 平成4年6月27日(土) 午後3時~6時
場所 千葉大学薬学部百周年記念館

(総武線 西千葉駅北口方面、
大学の南門通り徒歩約10分)

会費 一般 7,000円 学生 3,000円
当日会場にて申し受けます。

総会

報告 渡辺和夫学部長の学部近況報告

議題1. 事業報告 2. 会計報告 3. 役員選任
4. 事業計画 5. その他

懇親会

なお、準備の都合上、御欠席の方も6月13日(土)までに同封の葉書にて御返信下さい。

薬友会のページ

同窓生と大学が一体となって発展する目的で、同窓会から薬友会組織へと衣替えをして、はやくも一年が経過しました。その間、皆様の御支援のもと、「薬友会報」の創刊号と新しい会員名簿を発行することができました。

平成4年度の事業計画は、皆様のお手元に配りましたこの薬友会報第2号の発行と“開きニュース”になっており、6月27日(土)の総会ならびに6月13日(土)の生涯教育セミナーを予定しております。事務局としましては、大先輩にも若い卒業生にも皆様に喜んでいただけるように努力致しておりますので、いろいろと御指導・御鞭撻のはどお願い申し上げます。新しい企画の生涯教育セミナーですが、薬学として取り組むべき範囲が年々拡大し、少し自分の分野を離れるとなかなか学問の進歩についていけないのが現状です。それらをカバーするためのセミナーを毎年行うという試みです。本年は“薬の副作用”に焦点を絞ってみました。皆様ふるって御参加下さい。

昨年度の主事業の一つである「薬友会報」の創刊は、御陰様で大変好評でした。次号以下の内容に関して御希望がありましたら、是非とも御意見をお寄せ下さい。また、「会員名簿」の発行は、予定より少し遅れましたが、無事発行の運びとなりました。約2,000名の終身会員の方にお送りしましたが、約20冊程が返送されてきました。20代の方の住所変更が多いのは止むを得ないと想いますが、住所変更後はすみやかに御連絡下さいようお願い致します。コンピューターを使用しての会員名簿発行は今回で2回目ですが、次第にソフトが整備されてきましたので、次回はさらにミスの

少ない名簿になると思います。最も多く苦情は索引の名前が正しい場所に載っていないということでしたが、名前にフリガナをつけ、次回は万全を期したいと思います。また、今回は完全ではありませんが、勤務先別の名簿作成を試みたので、御希望の方は総務係にお問い合わせ下さい。

このように活動が盛んになりますと資金面が心配になりますが、多数の会員の皆様から終身会員に加入して戴いたり、御寄付を戴いたりしまして、かなり活動がしやすくなっています。この紙面をお借りしまして御協力戴いた方に厚く御礼申し上げます。なお今後の会の運営を円滑に行うためにも、資金面の御協力に関しましてもう一度御案内させていただきます。

1. 終身会員になる。会員2万円。現在、約50%の皆様が終身会員になっておられます。終身会員の皆様は名前に○印がついております。4年に1度発行の会員名簿が無料で送付されます。
2. 寄付(1口 2千円から)。これは一般会員の皆様と、終身会員費が1万円であった頃の皆様を対象としたものです。物価が上昇しておりますので、よろしくお願ひ致します。

以上のいずれかに御協力戴ける場合、同封の郵便振込用紙を御利用下さい。銀行振込の場合は、千葉銀行西千葉支店、普通預金口座2232357「千葉大学薬友会」宛に御送金下さい。

各種委員会役員名簿

総務委員会	○坂井和男、上野光一、池上文雄 村上泰興(S36)、立崎 隆(S41)、 野中浦雄(S42)
財務委員会	○上野光一、坂井和男、池上文雄 村上泰興(S36)、立崎 隆(S41)、 野中浦雄(S42)、藤沢栄一(S13) アドバイザー
名簿委員会	○池上文雄、坂井和男、上野光一 村上泰興(S36)、立崎 隆(S41)、 野中浦雄(S42)
事業委員会	○戸井田敏彦、笈川節子、山崎幹夫(アドバイザー) 大川幸子(S32)、山田和見(S32)
会報委員会	次頁参照 (○印:委員長)

薬友会会員名簿(平成3年版)

一部 5,000円

終身会員の方へは既に発送しております。

終身会員以外の方は名簿へお申し込み下さい。